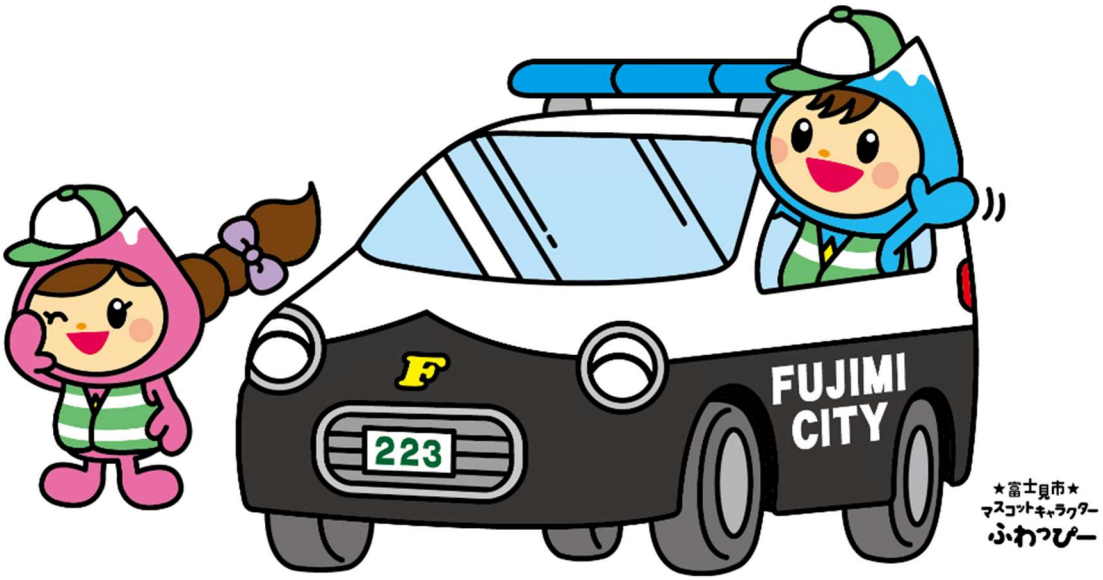
富士見市
自主防犯活動マニュアル



はじめに

わが国の刑法犯認知件数は、戦後１３０万～２００万件台を推移してきましたが、平成１２年ころから急増し、平成１４年のピーク時には約２８５万４０００件となりました（警察庁統計）。刑法犯認知件数とは、警察が把握した件数のことです。富士見市でも平成１０年に２０００件を超え、ピークとなった平成１７年には２７６７件となっています。

このような犯罪情勢を踏まえ、政府は総合的な治安対策を推進するべく、警察庁をはじめとした関係省庁と地域住民等が連携した取組みを開始し、現在ではピーク時の３分の１となりさらに減少傾向を見せています。

富士見市においてもおおむね減少傾向を維持しており、令和元年度における市内刑法犯認知件数は 832 件となりました。こちらもピーク時の３分の１以上減少しており、地域防犯活動により警察活動を支えた市民の力が大きく寄与しています。

一方、認知件数全体では減少しているものの、その内訳をみると振り込め詐欺などの特殊詐欺や、子どもを対象とした略取誘拐、性犯罪など増加傾向にあるものもあり、引き続き地域防犯活動を行っていくことが大切です。

安全で安心なわが国、そして「富士見市の安全」を守り続けるためには、時代や社会情勢、自然災害はもちろんのこと、新型コロナウイルスをはじめとした感染症が発生した時など、その時々の情勢下で起こり得る犯罪防止も視野に入れる必要があります。

本テキストでは、地域防犯活動の基礎、そしてこれからの活動のあり方について記しています。地域の方々がさまざまな方法で協働し、継続する次代へ継続するサイクルを描いていけることを願っています。

特定非営利活動法人日本こどもの安全教育総合研究所理事長
富士見市防犯アドバイザー
宮田　美恵子

もくじ

１．防犯活動の意義

１－１：地域防犯活動の目的

１－２：地域防犯活動の理念

・活動の理念『MATE（仲間）』とは

・『プライド防犯』

・地域防犯活動の意義

２．犯罪発生と防犯活動の考え方

２－１：犯罪発生の基本原理

3．防犯パトロールの基礎

３－１：活動の準備

３－２：メンバーの組み合わせとコース

３－３：犯罪の前兆と情報

３－４：防犯活動の方法

３－５：ふりかえり

ＰＤＣＡサイクル

4．新型コロナウイルス感染症流行時のパトロールのあり方

5．活動の注意点

6．子どもや高齢者等の見守りパトロール

おわりに：「見守りつなぎ」の富士見市へ

１．防犯活動の意義

１－１：地域防犯活動の目的

地域防犯活動の目的は、犯罪の発生を予防することです。市民の自発的な活動であり、プロフェッショナルな組織活動である警察官の仕事とは異なります。したがって、まずは活動する自分自身や仲間の健康管理、安全を第一に、無理のない活動であることが大事です。その上で、犯罪の前兆的な出来事や情報をいち早く察知し、皆で共有して警察へ連絡するなど、深刻な事態に進むことを未然にくい止めます。

１－２：地域防犯活動の理念

・活動の理念『MATE（仲間）』とは

地域活動は、安全安心な生活のために自分にできる事を考えて、自発的に協働する市民（Citizen）が担い手です。その理念としては「できる人＝Man が、できること＝Action を、できる時＝Time に、楽しみながら＝Enjoy」行う、この４つの英単語の頭文字をつなげたＭ・Ａ・Ｔ・Ｅがあげられます。これは仲間＝Mate(メイト)を作って、つながりを築くことでもあるのです。大事なのは、無理せず自分にできるやり方で気楽に関わることです。

・『プライド防犯』

これを体現しているのが、地域防犯活動です。熱心なボランティアによる地域防犯活動は、世界でも犯罪の少ないわが国の安全に貢献しています。

その活動する姿を「プライド防犯」と呼びたいと思います。プライド防犯とは、地域の安全安心のための MATE の理念に基づく誇り高い活動、あるいは誇りある活動をする人のことです。「誇り」とは、自分が大事に思っていること、自分らしさ、譲れない自分の在り方、生き方のようなものです。

・地域防犯活動の意義

犯罪の予防を目的とした地域防犯活動では、無理なく継続して活動する姿を見せていくことが大事です。地域にこの姿があれば、犯罪を企む人をためらわせるだけでなく、地域の人々に防犯の大切さへの気づきをうながすことができます。これを『見せる防犯』と言います。

そうとは言え、地域防犯活動は、現在活動する人だけが頑張り続けるの

ではなく、まだ参加していない人にその必要性や『ＭＡＴＥ』の考え方を伝えることで、誰にでも参加できることを知ってもらうことも大切です。安全で安心な暮らしを守るために、１人ひとりが自分にできることで参加する意義を伝えていきましょう。

２．犯罪発生と防犯活動の考え方

２－１：犯罪発生の基本原理

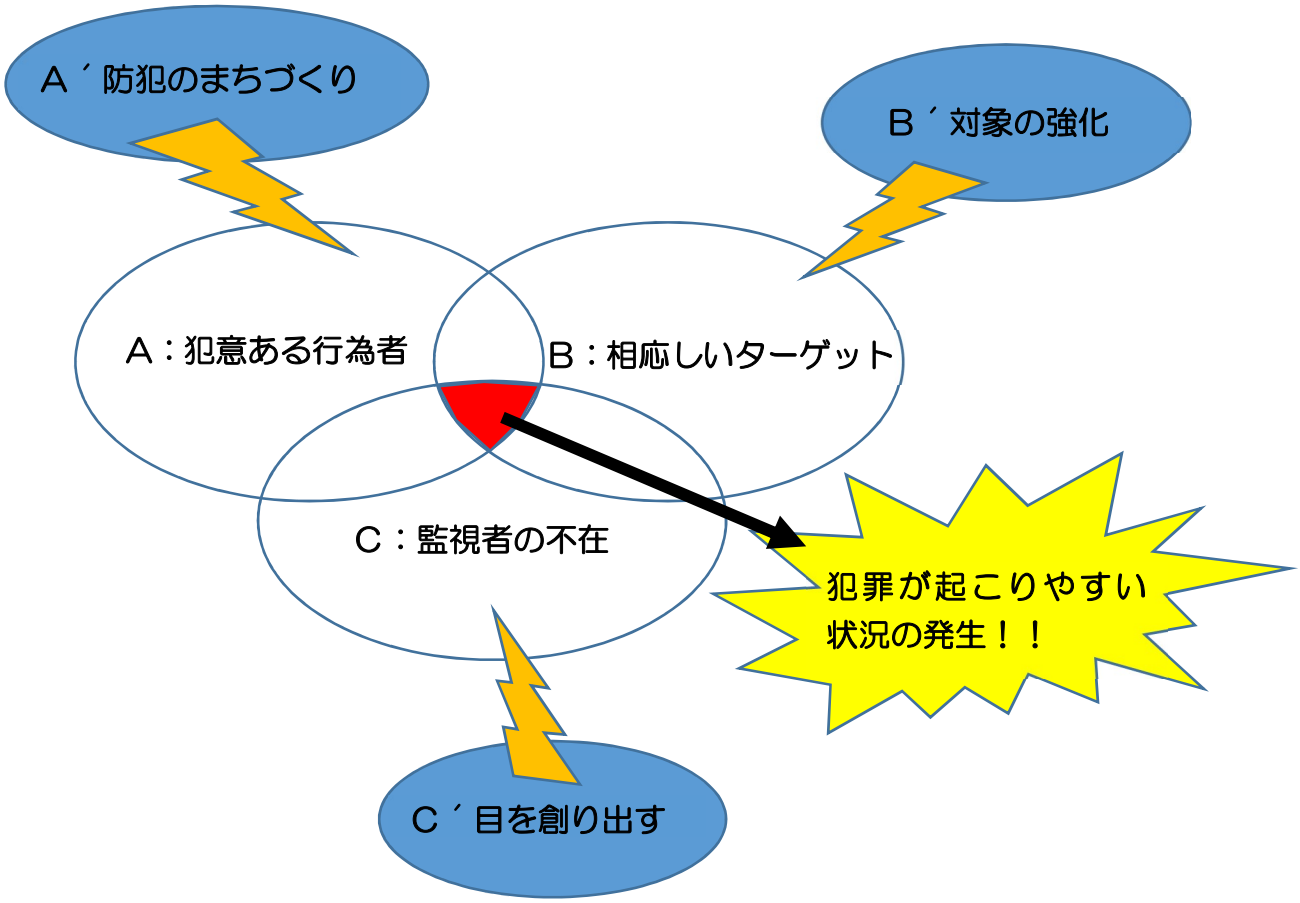
犯罪の発生には、次の３つの条件があります。

Ａ：犯意ある行為者
（犯罪を企む人）

Ｂ：相応しいターゲット
（鍵のかかっていない家や１人でいる子どもなど）

Ｃ：監視者の不在
（人の存在や目など）

この３つの条件がそろった時、その時その場所は犯罪が起こりやすくなります（M.Felson ら、1979）。そのため、わがまちで犯罪を起こさせないようにするためには、この３条件がそろわないように、それぞれに対策を講じていきます。パトロール活動は、とくにＣ´の目を創り出すことに貢献できます。



３．防犯パトロールの基礎

３－１：活動の準備

メンバーが集まったら、活動をとりまとめるリーダーとサブリーダーなどの役割を決めます。任期を定めたりローテーションするなど、やりやすい方法を考えます。また、無理のない活動を継続するためには、メンバーの都合（曜日や時間帯など）や体調（個人情報を開示する必要はなく、考慮する点があれば必要な範囲で共有）などを確認し合っておくことも大事です。さらに、地域の犯罪情勢を確認し、現在どのような問題や課題があるか、現状を把握しておくことも必要です。市の犯罪認知件数等の情報は、埼玉県警察のホームページなどに掲載されています。

市民による防犯活動は、予防が主な目的です。みなさんが活動する姿そのものが犯罪を企む人をためらわせ、犯罪を未然に防ぐことができます。そのため、活動を周囲にピーアールするように目立つ服装で統一すると効果的です。また、交通事故防止や夜間活動のためには、反射材を用いたものがおすすめです。町会名の入ったたすきや腕章、バッチなどがあれば組織活動は行いやすく、理解を得られやすいでしょう。

また、服装は動きやすいものであるとともに、季節に合わせ夏は風通しのよい素材、夏場の熱中症防止のために、帽子もそろえるとよいでしょう。冬は防寒対策も意識して用意します。

例：目立つ色彩のジャンパーやベスト、帽子、たすき、腕章、のぼり旗、反射材、防犯ブザー、携帯電話、手袋、ビニール袋、動きやすく季節に合わせた服装、歩きやすいスニーカーなど、メモ帳や筆記具、タオル、懐中電灯、ホイッスルなど。

３－２：メンバーの組み合わせとコース

防犯活動は、犯罪を未然に防ぐ目的から、万一の事態、また熱中症や突然の体調変化などに対応するためにも必ず複数人で行えるように、その日の活動メンバーを組みます。

活動するコースは一定にせず、日や週ごとに変更していくと効果的です。いつも一定のコースを決まった時間にパトロールしていると、市民は安心できる一方で、犯意ある行為者にとってはその時間やコースを避けて犯罪におよぶ情報にもなりえるからです。そのため、パトロールなどの活動時

間は、無理をせず 20 分から 30 分程度で回れるコースをいくつか設定しましょう。同時に複数のコースを複数のメンバーで回ったり、時間差で回ったり、1 つのコースを往復するなど工夫しましょう。

地域に心配な出来事や気になる情報などがあれば、解決するまでの間は、そこを重点的にパトロールすることも意義があります。（表１参照）

表１：パトロール計画表

〇年〇月　　緊急連絡先〇〇〇

日	曜日	時間	コース	リーダー	参加者名
		〇〇～〇〇	A		
			B		
			C		
			D		
			E		

Ａ：〇丁目から〇まで
Ｂ：Ａを逆に回る
Ｃ・・・

パトロールを開始する前には、リーダーが中心となってメンバーの健康チェックを行います。体調が万全でない人がいれば、参加を控えてもらうことも必要です。

次に、本日のコースや時間などを決めます。ただ漫然と歩くのではなく、不審者情報や犯罪の前兆事案などがあった時には、それに合わせて本日の注目ポイントを決めて意識をしながら歩くことも重要です（表２参照）。特に変わったことがない時でも、確認ポイントを一覧表にしておき、少なくともそれらの確認を忘れないようにすることも大事です（表３参照）。

表２：パトロールの視点

例：子どもへの声かけ事案や不審者情報が相次いでいる場合
登下校の見守りを中心に行う。

振り込め詐欺が続いている場合
のぼり旗などを活用したり、町会の掲示板に予防を呼びかけるポスターを掲示する。

落書きが見つかった場合
メンバーだけでなく、地域で協力者を得るなどして落書きを消す。

ごみが散乱している場合
協力者を得て、ごみを掃除し花を植えるなどまちの美化を進める。

自転車盗が相次いでいる場合
駐輪場を巡回コースに加えたり、無施錠の自転車の持ち主に声をかける。

春の入学シーズンや学校の学期休み後：
登下校の時間帯の交通や見守り活動に協力する。

※ メンバーだけですべてに対応する必要はありません。地域の協力者を得て、無理なくできる範囲のことを行います。または、市の担当部署や警察に情報提供を行います。

表３：パトロールチェックポイント一覧

チェック項目	☑	気づいた点など
防犯灯の故障等		
ごみの散乱		
落書き		
不審者への声かけ		

３−３：犯罪の前兆と情報

パトロール中には、犯罪の前兆となる事象を見逃さないことが大事です。たとえば、いつもと様子が違うことがあれば、疑問をもってみましょう。日時、コース、メンバー、気づいた場所、気になる事といつもの様子などを仲間と話し合ったり、メモ帳に書き留めておきます。併せてそのご近所の人や商店などにも変わったことや気になることがなかったか、聞いておくと参考になります。ケースによっては警察に連絡したり、翌日以降も観察しておきましょう。

気になる対象が人であった場合には、声をかけてみます。その際には、相手の目を見て「こんにちは」「おはようございます」などのあいさつをしてみます。不審かどうか、その時の様子でもわかるかもしれません。しかし、これ以上の深入りはしません。地域防犯活動の目的は、あくまでも一般市民による予防活動であり、追跡したり逮捕することではないからです。気になる情報があれば警察に連絡して、翌日以降の様子を観察する、というところまでです。または、その原因が判明した場合、環境整備をしたり、美化を進めるなどして、犯罪の前兆的な事象が起こらないようにします。

３−４：防犯活動の方法

防犯活動やそれに関連する活動にはさまざまな方法があります。町会などの単位による組織活動や個々人の活動、徒歩によるパトロールや青色防犯パトロールカーによるものなどです。また、登下校の見守りを兼ねた活動や子どもの虐待、迷子、青少年の非行防止、高齢者の徘徊、環境整備、美化活動などがあげられます。地域の実態やメンバーにとって都合のよい時間帯や所要時間、向き不向きなどに合わせて行いましょう（表４参照）。

表４：ＭＡＴＥの理念に沿ったさまざまな地域防犯活動の方法

手段	組織	個人
徒歩	変化をつけた防犯パトロール、見守り活動	■**ながら見守り**：わんわんパトロール、水やり見守り、買い物見守り、啓発たすきがけ散歩、啓発エコバック携行、防犯ベスト着用ウオーキング、
ランニング		ランニングパトロール、ランニング見守り、防犯ジャンパー着用ランニング

青色防犯パトロールカー	音声による呼びかけ 車内からの呼びかけ	
自転車		啓発プレート掲示
掲示板や自宅の庭など	町会の掲示板への啓発ポスター掲示、見守りベンチ（やイス）	啓発シール、のぼり旗、こども110 番の家、見守りベンチ（やイス）※

※『見守りベンチ（やイス）』の取り組み

誰でも座るだけで犯罪抑止に寄与できる。高齢ボランティアの見守り場所にもなる（防犯ベストを着て複数人が座るだけ）。

3−5：活動のふりかえり

日々の活動はただ漫然と歩くのではなく、本日のポイントを定めて、特に何に注目するのか(3-2 参照)を明確にすることが大事です。そのため、開始前の簡単なミーテイングと活動終了後の情報共有、活動日誌に書き留め翌日の活動に役立てると、より意味のある活動になります。本日の書記担当を決めて書き残すようにしましょう。事件が起こった時にも異変を読み解く手掛かりになるかもしれません。（表５参照）

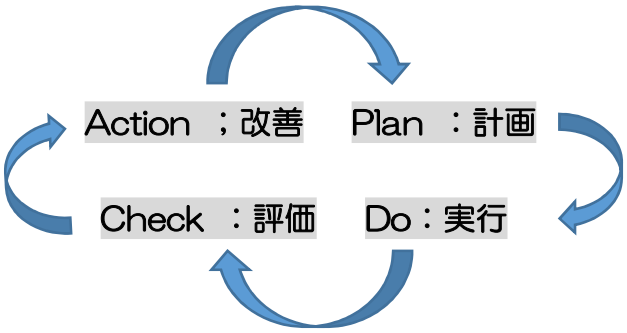
表５：内部の活動日誌

	内容
活動日時・曜日・天気	○年○月○日（　○　）　○○～○○　　雪
本日のポイント	振り込め詐欺の被害があったので、呼びかけを強化する
コース	Ａコース
リーダーおよび参加者	○○、○○、
健康チェック	全員体調良好
活動内容	・町会掲示板のポスターが剥がれかけていたので直した。 ・不審な行動をしている人がいたのであいさつした。
連絡事項など	・公園のトイレに落書きを発見した。改善計画をたてる必要がある。

課題や問題点	
警察等関係機関への連絡の必要性	

日々の活動から地域の課題が明らかになってきたら、改善計画を立てます。課題はメンバーだけでなく関係者に相談したり、アドバイスをもらうこともあるでしょう。計画を実行したら、その後評価を行います。さらに改善点があれば次の計画を立て実行する、というサイクルにより地域安全をより良いものにしていきます。

ＰＤＣＡサイクル



情報は活動団体ごと、必要に応じて次のような一覧表（表６参照）を作成するとよいでしょう。情報をまとめて傾向をとらえていくと、次の活動の重要なヒントが浮かび上がってきます。

表６：活動の視点

例：

日々の視点：

- 防犯灯の故障等はないか
- 落書きやごみの散乱はないか
- 自転車の乗り捨てはないか
- 町会の掲示板に古い情報が取り残されていないか

前兆事案があった時の視点：

- その事案が起こった場所やその周辺にも変化がないか

事件直後の視点：

- 解決後もしばらくは事件発生地点や周囲に注意を向ける

4. 新型コロナウイルス感染症流行時のパトロールのあり方

私たちはこれまでに多くの危機を経験してきました。東日本大震災など幾多の震災、令和元年の台風 15 号と 19 号など風害や水害、温暖化による過酷な熱中症、巧妙化・悪質化する犯罪など、いつ、どこで、だれが遭遇してもおかしくない危機が起きています。しかしその都度、私たちは地域という単位でそれらと向き合い、協力して乗り越えてきました。その最もよい例が、「地域防犯活動」です。

今回のコロナ禍では人が集まることが問題視されました。３密（密閉・密集・密接）を避け、人と距離を取ることが求められました。人々が集まって顔を合わせ「つながり」を重視してきたこれまでの地域防犯活動のあり方とは相反します。活動の今後を危ぶむ方もあるかもしれません。

しかし、危機的状況でこそ犯罪が多発します。災害の後には、空き家と化した商店や民家に侵入し略奪したり、被災者の弱みに付け込み必需品を高値で売りつけたり、人々の困難を利用する悪質なものが多く発生します。今回も既に、コロナに関わる内容で不安を煽り、現金を要求する振り込め詐欺が実際に起きています。人々が困難な状況であればあるほど、それを悪用する犯罪が起きるのです。

まさに今こそ、地域防犯活動の必要性は高まっているのではないでしょうか。ウイルスの感染者・媒介者にならないよう努力をしている中で、追い打ちをかけるような犯罪を防ぐため、できる人ができる方法で周囲の人に注意喚起することが望まれます。

コロナ禍だからこそ、地域防犯活動のあり方やその意義を改めて振り返るとともに、今後どのような方法で地域防犯活動が継続可能なのかを考えましょう。

感染防止対策をふまえたこれからの地域防犯活動もまた、MATE の理念に基づき段階的に進めます。（表７参照）

表７：新型コロナウイルス感染拡大防止をふまえた活動の在り方

①緊急事態宣言が出され、不要不急の外出に対し自粛が要請されている段階

防犯活動は自宅の敷地内で出来ることを考える。たとえば、自宅前にのぼり旗を立てコロナを悪用した振り込め詐欺などに注意喚起する。これを各自が行えば、犯罪を企む人への抑止になる。また、町会の掲示板に効果的なポスターを掲示する。

②3 密に注意した上で外出制限が徐々に緩和された段階

マスクや手袋を着用し、2～3 名程度で距離を保ち、毎日ではなくても時間帯やコースを変えて短時間、短距離のパトロールをする。地域でコロナ関連の犯罪が発生しているなら、防止を呼び掛ける録音音声を流しながら歩いてもよい。

③子どもたちも視野に

休校中の子どもたちがむやみに外出していないか。密集していないか。ぽつんと一人でいる子どもは連れ去り等も心配。そのような場面に遭遇したら、咎めるのではなく言葉をかける。その他、普段なら幼い子どもと保護者が多い公園に小・中学生たちもいる場合は、園内を上手く共有できているか、困りごとが発生していないか、などにも目を向けるとよい。

どの段階でも大事なのは MATE の理念です。のぼり旗やポスターなどを利用したり、出来る時に出来る方法で、距離を保ちパトロールをすればよいのです。無理なく活動を続けることで、人々に気づきを促していきます。

このような時にこそ、地域住民による防犯パトロール活動があれば、その姿を見て犯罪行為者は警戒し、人々は、目の前のことに目を奪われている自分に気付き、さらなる被害を受けないようにと気持ちを引き締めてくれるかもしれません。地域防犯の姿はこうした犯罪を抑止することにつながるのです。予防が地域防犯活動の第一目的ですから、無理のないパトロール活動で、ぜひ姿を見せていきたいものです。

5. 活動の注意点

地域の安全はとても大事ですが、活動する人たち自身の安全も重要です。常に自身や仲間が安全であることを念頭に、決して無理な活動（たとえば、長時間におよぶ、体調が悪いが我慢して行う、など）や、危険な行動（一人で行う、不審者を追いかけるなど）は行わないでください。活動の範囲は、地域で発生している変化を感じ取り、情報を書き留めて改善したり、必要に応じて警察への確実な情報提供を行うことです。毎回の活動前に確認しましょう。

また、地域の安全を守る目的であっても、他人の敷地内に勝手に立ち入ることはできません。トラブルの元になりますので、注意が必要です。また、活動を通して個人情報が入ってくることもありますが、他言せず秘密厳守することは欠かせません。

万一、個人情報を漏らしたり、そこから拡散するなどした場合、被害を拡大させることにもなりかねません。また、情報の持ち主とトラブルに発展しかねませんので、慎重に扱うことが信頼にもつながります。

例：何丁目のどこで被害があった。あの家は何人家族だ。あの子が性犯罪にあった。あの辺りは犯罪が起こりやすい、など。

6. 子どもや高齢者等への見守りパトロール

地域防犯活動では、地域の様々な人に目を向けましょう。もしも困っている人をみかけたら、まずあいさつし、困りごとはないかたずねてみましょう。次のような場合はすぐに電話をします。

虐待　１８９（いちはやく）
迷子　迷い人　１１０

おわりに：見守りつなぎの富士見市へ

　統計でみると防犯ボランテイア団体数は平成１５年から右肩上がりで増え、令和元年には約４万６０００団体となりました。構成員数は約２５０万人です。現在では高齢化等から微減傾向が見られますが、それでも刑法犯認知件数が急増した平成１２年から減少に至る令和３年の現在まで、およそ２０年に渡り全国各地の地域安全、地域防犯を支えてきたのは、ボランティアによるパトロールや見守り活動に関わってきた皆さんです。そして、富士見市の１人ひとりの地域の皆さんでもあります。

　もしもまちに困っている人、助けを必要としている人を見聞きしたら、積極的に言葉をかけていきたいものです。仮に言葉かけが難しくとも、たとえば交番の警察官や保護者など、子どもなら子どもの安全を託せる、しかるべき誰かに「見守りをつなぐ」ことはできます。危険な状況にある子どもの存在に気づいた大人が、その時声をかけられなくても、そこで情報を止めることなく、せめてだれかに「つなぐ」ことで救われる命があるかもしれません。

　犯罪は人や物の隙をついて起こるものですから、その隙を皆で手分けして塞がなくてはなりません。たとえ悪意を潜ませた人が身近にいたとしても、パトロールや見守りの目によって犯罪行為実行のチャンスをつぶせます。

こうして様々な人に見守られながら大切に育てられた子どもたちはきっと、次の世代の見守り手になってくれることでしょう。

すなわち、『見守りつなぎ』は、人から人へ、世代から世代へ連なっていくのです。少子化が進む社会にあって、子どもが増え続けている安全・安心で暮らしやすい富士見市の地域防犯活動に期待しています。

防犯・犯罪情報参考サイト

富士見市ホームページ　防犯情報

https://www.city.fujimi.saitama.jp/anzen_anshin/09bouhan/index.html

QR コード	

埼玉県警察　犯罪情報官ニュース

https://www.police.pref.saitama.lg.jp/c0011/kurashi/jouhoukananai.html

QR コード	

埼玉県警察　犯罪発生状況マップ

https://webmap.police.pref.saitama.lg.jp/machikado/webmap/smartphone/index3.jsp

QR コード	

埼玉県警察　埼玉県警察が発信している４つの犯罪・防犯情報ツール

https://www.police.pref.saitama.lg.jp/c0011/kurashi/4tool.html

QR コード	

特定非営利活動法人日本こどもの安全教育総合研究所

http://kodomoanzen.org/

QR コード	

参考文献等

・地域コミュニティと教育～学校づくりと地域づくり～
　放送大学教育振興会　玉井・夏秋・岩永・宮田　平成 30 年
　（BS　放送大学にて放映中）
・うちの子、安全だいじょうぶ？新しい防犯教育　新読書社　平成 30 年
・地域防犯と子どもの安全（連載）　安心なまちに　全国防犯協会連合会

MEMO

富士見市自主防犯活動マニュアル

発行　富士見市
著者　宮田　美恵子
特定非営利活動法人日本こどもの安全教育総合研究所理事長
富士見市防犯アドバイザー